

**東急電鉄株式会社では初となる「川崎市地域脱炭素移行・再エネ推進補助金」を活用した  
環境に配慮した事業所を川崎市内で11月1日から供用開始します**東急電鉄株式会社  
東急軌道工業株式会社

東急電鉄株式会社(以下、東急電鉄)と東急軌道工業株式会社(以下、東急軌道工業)は、BCP強化や業務連携を目的に、東急軌道工業 梶が谷事業所(以下、梶が谷事業所)の新築工事を進めてきましたが、今般、従業員の業務環境向上、そして環境への配慮・負荷低減をコンセプトとして設計した梶が谷事業所を11月1日から供用開始します。

今回の工事では、東急電鉄として初めて川崎市の脱炭素先行地域で「川崎市地域脱炭素移行・再エネ推進補助金」を活用し、太陽光発電パネル、全館空調設備<sup>※1</sup>などを導入しました。また、建物の構造体を、居住空間に対しリラックス効果や温度調整効果、消臭抗菌効果などの良質な効果をもたらす木造とし、脱炭素やCO<sub>2</sub>固定化に貢献しました。室内は、見通しが良くコミュニケーションが取りやすい空間を創出するため、柱を一般的な工法よりも少なくすることが可能な木造工法<sup>※2</sup>の採用や、デニム端材を再利用した左官材で東急軌道工業の作業着である紺色を表現したほか、保線工事で使用する軌道碎石やイヌクギなどの資材をオブジェのように配置することで、東急軌道工業らしい要素をデザインに取り込みました。さらに、新聞紙をリサイクルした断熱材<sup>※3</sup>や卵の殻を再利用した壁紙の使用など、建築資材の一部にアップサイクル<sup>※4</sup>材を採用しました。

今後も東急電鉄は、脱炭素・循環型社会の実現のため、2022年3月に策定した「環境ビジョン2030」の実現と2050年のCO<sub>2</sub>排出量実質ゼロ・再エネ比率100%を目指し、サステナブルな東急電鉄関連施設づくりを進め、東急線沿線にお住まいの方々と共に自然と調和する持続可能なまちづくりを推進していきます。

※1 全館空調設備 ……パッシブエアコン(OMソーラー株式会社の商品名)。屋内全体をゆっくり温度調節する空調システムで、冬は床下から暖房を、夏には天井から冷房することで屋内の温熱環境を一年中快適に維持する。

(出典:OMソーラー株式会社 HP)

※2 木造工法 ……テクノストラクチャー工法(パナソニックが独自に開発した耐震工法)。木と鉄を組み合わせた梁と緻密な構造計算で地震や災害に強い構造を実現。(出典:パナソニック アーキスケルトンデザイン株式会社 HP)

※3 断熱材 ……デコスファイバー(株式会社デコスの商品名)。断熱材業界において日本で初めて「エコリーフ環境ラベル」宣言を取得した建築用断熱材で、新聞紙を主原料としている。(出典:株式会社デコス HP)

※4 アップサイクル ……本来捨てられる「廃棄物」を素材と捉え、新たな価値を持つ製品として生まれ変わらせる事。



▲外観写真



▲内観写真

## 【別紙】

### 1. 「脱炭素先行地域」について

2050年カーボンニュートラルに向けて、民生部門(家庭部門及び業務その他部門)の電力消費に伴うCO<sub>2</sub>排出の実質ゼロを実現し、国の2030年度目標と整合する削減を地域特性に応じて実現する地域で、「実行の脱炭素ドミノ」のモデルとなるもの。

### 2. 「川崎市地域脱炭素移行・再エネ推進補助金」について

2030年度における民生部門の電力消費に伴うCO<sub>2</sub>排出実質ゼロ達成等に向けて取り組みを行う事業者に対して、地域脱炭素移行・再エネ推進事業計画(川崎市の交通要衝「みぞのくち」からはじめるCO<sub>2</sub>最大排出都市の脱炭素アクション)に定める施設等の整備等にかかる費用の一部を補助し、川崎市とともに地球温暖化対策を推進することを目的としています。

### 3. 東急軌道工業 梶が谷事業所新築工事 概要

○用途:事務所

○敷地面積:521.07㎡

○延床面積:435.74㎡

○建築面積:223.79㎡

○構造:木造地上2階建て

○用途地域:準住居地域

○防火指定:準防火地域

○容積率:200%

○建蔽率:60%

### 4. 本物件に導入したアップサイクル材

・デニム端材を使用した左官材「NURU DENIM」



(出典:日本エムテクス株式会社 ノルデニムカタログ)

・外構用蛇籠に線路の軌道碎石を使用



・新聞紙をリサイクルした断熱材「デコスファイバー」



(出典:株式会社デコス)

・卵殻を配合した機能性壁紙「エッグウォール」



(出典:日本エムテクス株式会社 HP)